

パフォーマンステスト「身近な人紹介」(第8時)

測る力	話すこと〔発表〕＋〔やり取り〕：身近な人を2～3文で紹介し、質問に応じられるか（知識・技能／思考・判断・表現）
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で（待機イス1つ）。30秒の紹介＋先生からの質問1つ。絵・写真・名前カードを持って来てよい。
ことばの条件	キーフレーズポスターは掲示したままでよい。クイズカード（活動1）や人カード（活動3）を見ながらでもよい。絵カード（提示用1部）はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか（これが崩壊しない鍵）

グループ	やること	用意する物
A（テスト中の班）	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	クイズカード（人カードでもよい）
B	だれでしょうクイズ・延長戦（小声で）	活動シート1の予備
C	できることリレーの取材メモを班の中で聞き足す（Can you ...? を小声で・立ち歩かない）	活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く（書けたら席でBと同じことをする）	振り返りカード（パック同梱）

1班終わるごと（9～10分）に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる（テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ）。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと（待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ）。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。緊張の強い子は「クイズ形式」（ヒントを言って先生が当てる）に切り替えてよい。当たったあとに追いかけて質問（Can he[she] cook?）を1つ必ず聞く——ここを落とすと、やり取りの力が測れない。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! Who is this?

（カードや写真を指して。紹介のきっかけを渡す）

2 (児童の紹介 2～3文)

This is my He/She can ... well. など

3 Nice! Can he[she] cook?

（追いかけて質問は先生から1つだけ。Yes/Noで答えられればOK）

4 (ここで3秒、だまって待つ)

（子どもから Can you ... too? などの質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）

5 Great! Thank you. See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと He/She の言い間違いは減点しない（言い直せたら むしろ◎）。紹介する人が家族かどうかとも無関係。声の大きさは評価しない。見るのは「伝えようとする工夫」（カードを見せる・ジェスチャー）。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	This is my と He[She] can ... well. を正しく使い、掲示や手元のカードに頼りきらずに2～3文で紹介できる	支えの質問を受けながら、紹介の文を1～2文言える	カードを指しながら単語（mother! / cook!）で伝えられる→型の掲示を一緒に指さして1文だけ再挑戦
思考・判断・表現	相手に伝わるようヒントの順番や見せ方を工夫し、追いかけて質問に答えたいうえで、間があいても Can you ... too? など自分からの質問を1つ返して、やり取りを落とさずに続けられる	紹介したい内容に合う語句・表現を選んで伝えられる	内容がずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カードで選ばれる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	紹介する人のよさが伝わるよう準備し、できることリレーやクイズでも、He/She と自分からの質問を進んで使おうとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれのクイズがおもしろかった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】身近な人紹介のテストでは、教科書「Who is this?」で学んだ This is my と He[She] can ... well. を正しく使い、2～3文で紹介して追いかけて質問にも答えることができました。

【知技・b】クイズカードの型にそって、This is my と He[She] can ... well. の2文で身近な人を紹介できるようになりました。伝言リレーでは、He と She の言い分けも自分で確かめています。

【思判表・a】だれでしょうクイズでは、答えがすぐに分からないようヒントの順番を工夫し、聞き手の反応を見ながら発表することができました。

【思判表・b】聞き手に伝えたい内容を、その人のできることや人の中から選んで3つのヒントにまとめました。身近な人のよさが伝わるように、紹介する中身を考えることができています。

【態度】できることリレーでは、聞き取った友だちの情報を進んで別の友だちに伝えるなど、He や She を使ったやり取りに意欲的に挑戦しました。

【態度】紹介する人の「すてきなところ」を一生けんめい考えて発表する姿から、相手を大切にしながら英語で伝え合う態度が育っています。

【はげまし型】自分が決めた人のよいところを、時間をかけてヒントに書き起こしました。カードを手元に置けば、This is my と He[She] can ... well. の2文で紹介することができます。

【接続型】He・She を使って自分以外の人について話す経験をたっぷり積みました。中学校で学ぶ三人称の文法に、実感を伴ってつながる土台ができています。

【発展・★3】身近な人の紹介では、先生の質問に答えて終わりにせず、自分からも質問を1つ返し、話し手と聞き手を入れかわりながら3～4往復のやり取りをつないでいました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる（順番は入れ替えてよい）。紹介した人物が「だれか」には所見で触れない（家庭状況への言及になり得るため。「伝え方」の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。